

(様式)

大阪市建設局設計・施工技術連絡会議 議事録

工 事 名	淀川左岸線（２期）トンネル整備工事－２		
会 議 名 称	大阪市建設局設計・施工技術連絡会議（第３回）		
開 催 日 時	令和５年２月２０日（月）１３：３０～１５：００		
開 催 場 所	建設局野田工営所（淀川左岸線２期建設事務所）３階会議室		
出 席 者	発注者	設計者	受注者
	建設局淀川左岸線２期 建設事務所	株式会社 エイト日本技術開発	熊谷組・森組特定建設工事 共同企業体
	設計課		
	建設課		
議題・議事の内容			
（１） 工事概要 淀川左岸線（２期）事業は、此花区高見から北区豊崎までの自動車専用道路であり、淀川堤防と一体構造となるトンネル構造物を開削工法にて整備するものである。 本工事は、淀川左岸線（２期）事業のうち、北区大淀北２丁目から中津７丁目区間を対象とし、詳細設計付きの工事を行うものである。			
（２） 事案概要 本事案は、以下の項目について、設計変更案の妥当性を確認するものである。 ① 本工事での地盤改良（SD・SCP）施工時に地盤変状を確認し、当該工法では施工を継続できなくなるリスクが判明したため、地盤改良工法について施工方法の見直しを含めた対応策を検討する必要性が生じている。 ② 躯体コンクリートの温度応力解析の結果、コンクリート配合、膨張材の添加及びひび割れ制御鉄筋を見直す必要がある。			
事案に対する検討内容 ① 技術検討委員会で認められた地盤改良工法のうち、安全性や経済性を踏まえた代替え工法の比較検討の妥当性、選定した地盤改良工法について現場条件（土質調査結果等）を踏まえた地盤改良の仕様（改良範囲、改良長等）の妥当性を精査する。 ② 躯体コンクリートの温度ひび割れ対策検討経緯と対策方法を基に変更を行うことについて、その妥当性を検討する。 (主な意見) ① 地盤改良工法及び固結改良深度の変更について ・地盤改良（SD・SCP）の代替工法として、経済的かつ周辺地盤への影響がなく、本事業でも実績のある工種として固結改良工法を採用することは適切である。 ・2-1工区の一部区間では、土質調査の結果、砂層が薄層でありかつ下部に粘土層が介在していることが判明したため、粘性土との連成評価の結果、Dg層を着底層とする必要があ			

る。

- ・砂層の下部に粘土層が介在しない区間においては砂層（Asc2層）を着底層とする。
- ・先行地中梁を実施する方が経済的であることが確認できた。

② 躯体コンクリートの温度ひび割れ対策について

- ・当工区における温度応力解析の結果、ひび割れ制御には低熱コンクリートを使用することが必須で、施工時期によっては膨張剤等の追加対策が必要となることについて、妥当であると考えます。